

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 1 区分
【発行日】平成29年2月16日 (2017.2.16)

【公開番号】特開2015-137884(P2015-137884A)
【公開日】平成27年7月30日 (2015.7.30)
【年通号数】公開・登録公報2015-048
【出願番号】特願2014-8440(P2014-8440)
【国際特許分類】

G 0 4 B 19/10 (2006.01)

【 F I 】

G 0 4 B 19/10 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月6日 (2017.1.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 0 】

【図 1】本発明の一実施形態に係るアンテナ内蔵式電子時計 1 0 0 (電子時計 1 0 0) を含む G P S システムの全体図である。

【図 2】電子時計 1 0 0 の平面図である。

【図 3】電子時計 1 0 0 の一部断面図である。

【図 4】電子時計 1 0 0 の一部の分解斜視図である。

【図 5】電子時計 1 0 0 の回路構成を示すブロック図である。

【図 6】電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 の一部破断斜視図である。

【図 7】電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態を示す一部破断斜視図である。

【図 8】電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 を示す斜視図である。

【図 9】インデックス 8 6 を示す斜視図である。

【図 1 0】電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態を示す断面図である。

【図 1 1】電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態の一部を示す斜視図である。

【図 1 2】電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態を示す平面図である。

【図 1 3】本発明の第 2 実施形態における電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 を示す一部破断斜視図である。

【図 1 4】本発明の第 2 実施形態における電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態を示す一部破断斜視図である。

【図 1 5】本発明の第 2 実施形態における電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態を示す断面図である。

【図 1 6】本発明の第 2 実施形態における電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態を示す一部破断斜視図である。

【図 1 7】本発明の第 2 実施形態における電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態を示す一部斜視図である。

【図 1 8】本発明の第 2 実施形態における電子時計 1 0 0 のダイヤルリング 8 3 にインデックス 8 6 を取り付けけた状態を示す断面図である。

【図 1 9】本発明の第 3 実施形態における電子時計 1 0 1 の平面図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

カバーガラス 8 4 の下側（裏面側）には、ベゼル 8 2 の内周に沿って、プラスチックなどの非導電性材料で形成されたリング状（円環状）のダイヤルリング 8 3 が設けられている。ダイヤルリング 8 3 は、文字板 1 1 の半径方向における内側に延びて形成された突出部 8 3 a を備えている。突出部 8 3 a には、真鍮やステンレス等の金属で形成された指標部材としてのインデックス 8 6 が固定されている。ダイヤルリング 8 3 とインデックス 8 6 とは別体である。突出部 8 3 a 及びインデックス 8 6 の詳細について後述する。また、ダイヤルリング 8 3 の下側には、ケース胴 8 1 の内周よりも内側に、プラスチックなどの非導電性材料で形成された地板 3 8 が設けられている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 7】

前記突出部 8 3 a には、図 9 に示すような形状のインデックス 8 6 が取り付けられる。インデックス 8 6 は先端部が傾斜しているが、その他の胴体部分は一定の厚みで形成されている。図 9 は突出部 8 3 a の平面部 8 3 b と接触する面が図 9 において上方になる向きのインデックス 8 6 を示す斜視図である。図 9 に示すように、インデックス 8 6 には、突出部 8 3 a の 2 つの第 1 孔部 8 3 c と嵌め合わされる 2 つの凸部 8 6 a が設けられている。本実施形態では、図 7 及び図 1 0 に示すように、インデックス 8 6 の凸部 8 6 a と、突出部 8 3 a の第 1 孔部 8 3 c とを嵌め合わすようにして、インデックス 8 6 を突出部 8 3 a に取り付け、仮り止めする。突出部 8 3 a の平面部 8 3 b を表側とすると、その裏側の面には、図 1 1 に示すように第 2 孔部 8 3 d が形成されている。第 2 孔部 8 3 d は、図 6 に示すように、第 1 孔部 8 3 c と連通して形成されている。本実施形態においては、第 2 孔部 8 3 d 側から接着剤を注入（塗布）し、インデックス 8 6 の凸部 8 6 a を、突出部 8 3 a の第 1 孔部 8 3 c に接着させることで固定させている。したがって、接着剤が見えないため、美観を損なうことがない。